

佐賀県

わらびの
蕨 野集落

先人が残した貴重な棚田(宝)を次世代へ！



「棚田米蕨野」3,150円/5kgで年間22t販売



棚田援農隊活動前の耕作放棄地

棚田援農隊により復元された棚田

取組概要

- H13年より、都市住民との交流イベントを行う「棚田と菜の花実行委員会」、棚田米の生産・販売を行う「蕨野棚田保存会」を設立し、棚田保全活動に着手。
- 大学生棚田援農隊による耕作放棄地の復田、企業等と連携した棚田ボランティアによる石積や畦畔の草刈活動を実施。
- 減農薬・減化学肥料栽培のブランド米「棚田米蕨野」を生産・販売。「早苗と棚田ウォーク」、「棚田と桜の里づくり」などのイベントを開催し、都市住民と交流。

活動成果

- イベントに多くの都市住民(H30年509人)が訪れることで、蕨野の棚田ファンが増え、「棚田米蕨野」が定着。
- イベント時に、直売所女性会員の手作りのさつま芋菓子やコロツケなどの販売で、高齢者の活躍の場や都市住民とのふれあいが生まれた。
- 地域住民が蕨野集落に誇りを持つようになり、先人が苦労を重ねて築いてきた棚田を未来へ継承しようという機運が高まった。

社会福祉法人もやいの会

働きたいをカタチに



複合環境制御ハウス 旧小学校跡地を活用



選果作業を行う利用者



トマトシフォン製作

取組概要

- H26年に小学校の廃校舎を活用し、複合環境制御ハウス12aを設置し、ミディトマトの養液栽培を実施。また、菓子工房の施設を整備。
- トマト栽培では、雇用契約を結ぶ就労支援A型の10人が栽培・選果に就労。菓子工房では、雇用契約を結ばない就労支援B型の23人が「トマト・シフォン」作りや原木シイタケ栽培に就労。
- 地元との融和のため、「地元協議会」を年2回開催。3月には収穫祭を開催。

活動成果

- 月産約3トンのミディトマトは、積極的な直売先の開拓で、大型スーパーにも出荷されるようになり、栽培、選果に従事している就労支援A型の10人には、県の最低賃金を支払うことができています。
- 就労支援B型の23人には、シフォンを月産200個製造販売する菓子工房や原木シイタケ栽培などの収益で、工賃を支払うことができています。
- 地元からは、廃校を再生させたことが高く評価され、収穫祭の参加者も500人超。

社会福祉法人もやいの会

佐賀県多久市南多久町下多久6103-2

Tel : 0952-76-4600 Fax : 0952-76-4620

NP0 法人伊万里はちがめプラン

生ごみを宝に持続可能な地域社会を目指して



生ごみ堆肥化実験プラント



はちがめ直売所「風道」

海外からの研修生の見学

取組概要

- 飲食店のグループがH9年に商工会議所の協力を受け、生ごみ堆肥化の研究を開始。H15年に当法人設立。
- 生ごみ堆肥化実験プラントがH12年に完成。現在、一般家庭300世帯、食品関連71事業所の参加協力によって年間500トンの生ごみを回収し、良質な堆肥250トンを生産。
- 市内の小学4年生約300名に対して当法人の環境活動の実践を通して環境教育を16年間継続実施。

活動成果

- 生ごみ焼却費年間2,000万円の節約を実現。農産物直売所(会員40名)と連携して環境保全型農業を振興。
- 環境フォーラム、グランドゴルフ大会の開催及び市内全保育園への菜の花苗配布により菜の花栽培を推進。
- 小学生への環境教育の結果、校区内団地の120世帯が生ごみ分別グループへ参加。全国からの視察者やジャイカ紹介による東南アジア等海外からの研修生への啓発活動も実施。

NP0法人伊万里はちがめプラン
佐賀県伊万里市大坪町狩立乙2436-1

<https://www.hachigame-plan.org/>
Tel: 0955-22-4058 Fax: 0955-22-4058

すみやま棚田守る会

すみやま棚田米が世界へ！



棚田保全活動で田植え体験



市内のスーパー等でお酒の販売会を実施



市や大学等と連携し、水力発電で棚田のイルミネーション

取組概要

- 過疎化などにより荒廃した棚田を8年がかりで整備し、景観やオーナー制度による田植え及び収穫体験などによる交流者増加と純米酒の生産・販売などを実施。
- 大学と連携した棚田での農業体験をテーマとした研究や水力発電によるイルミネーションなど、多様な者と連携した取組を実施。

活動成果

- 棚田米から製造した純米吟醸酒が仏の日本酒品評会で金賞を受賞(H28・H29)。お酒は集客目的のため地元限定販売で350万円の売上(H30)。
- ケーブルTVと連携した動画発信、地元酒蔵と連携したお酒の製造、航空会社と連携した空港での販売など、様々な者との連携により関係者間の絆が深まり地域活性化にもつながっている。

すみやま棚田を守る会
佐賀県伊万里市二里町中里甲2223

<http://www.ihn.jp/~hisakim/>
Tel・Fax: 0955-23-3776

かんざきわびし

神埼和菱組合

クレークの宝！和菱でつなぐ地域の輪



風物詩「菱の実採り」。ハンギーに乗って一つ一つ摘み取る



菱の実。茹でておやつとして食される



小学生の菱の実採取体験

取組概要

- 市の池沼などに群生する水生植物「和菱」の実を用いた特産品作りに向けH21年より活動開始。同年、自生和菱を原料とする焼酎が完成。
- H24年、菓子組合等と連携し、原料の製造過程で出る菱の外皮を使った菓子「ひしぼうろ」を開発・販売。H27年、外皮の成分に高い抗酸化作用が認められ、現在、茶等新たな商品開発を推進。
- これらに伴い、和菱の更なる増産を目指しH24年から水田栽培を開始。

活動成果

- 和菱の利用で自生和菱の採取が継続され、秋の風物詩「菱の実採り」が継承。今後の採取者確保に向け、菱の実採取体験も実施。
- 焼酎は福岡国税局酒類鑑評会の本格焼酎部門で金賞を受賞。製造量はH26年の570LからH30年には1200Lに拡大。
- 和菱の水田栽培も年々拡大し、H30年は6500aで栽培。H30年の自生菱と栽培菱を合わせた製粉量は521kg。

神崎市農政水産課 農業水産振興係
佐賀県神崎市神埼町神埼410番地

Tel : 0952-37-0117 Fax : 0952-52-1120

きど 城戸生産森林組合

ヒノキの林床を活用したサカキ栽培



城戸生産森林組合員 サカキの作業場にて



ヒノキの林床を活用



基山サカキ

取組概要

- 組合所有地が特別史跡に指定され、所有林が150haから20haに減少。新たな収入源としてH15年にサカキ栽培に着手。H24年1月から収穫開始。
- サカキ栽培は、ヒノキ林の林床が活用でき、年間を通して出荷可能。成長に伴い年々生産量が増加し、安定的な収入が確保できる。
- 生産・収穫を軽作業で行えるため、高齢者でも作業が可能。現在、5.5ヘクタールに約1万5千本の榊を栽培。

活動成果

- 基山町産榊は色艶が良く長持ちすると評判で、市場からの引き合いも多く、国産榊として高い評価を得ている。林野庁長官賞を受賞、県の地域産業資源として認定されるとともに、明治神宮の秋の大祭にも奉献。
- この取組みに賛同した町内の森林所有者が連携して、榊の生産拡大とブランド確立、六次化に向け、町内全域の山々に約1万本の榊を植栽。10年後の収穫に向け里山の保全を続けている。

城戸生産森林組合 佐賀県三養基郡基山町大字小倉2395番地1

〔 基山町産業振興協議会:事務局 基山町産業振興課
佐賀県三養基郡基山町大字宮浦666 Tel: 0942-92-7945 Fax: 0942-92-0741 〕

きやま

基山農業活性化協議会

今後の基山の農業を一緒に考えよう



試作品のテストマーケティング



キクイモチップス



勉強会の様子

取組概要

- 既存の集落営農組織が連携・一体化することにより、担い手不足等の課題解決を図るため、4つの部会で構成。
- 集落営農組織の強化及び担い手の確保に向け、法人化設立準備委員会委員を選出し、先進事例研修、勉強会、法人化協議等を実施。
- 新規導入の作物では、キクイモの生産促進に取り組むとともに、キクイモを使った加工品を試作し、東京にてテストマーケティングとアンケート調査を実施。

活動成果

- 集落営農組織の法人化に向けた取り組みでは、農家が地域の将来性を自ら考え、行政が決めることなく法人化に向け自らが答えを出した。
- 農産物加工では、新規導入作物のキクイモを使ったキクイモチップスを作成。キクイモの首都圏でのテストマーケティングでは、都市住民との交流のなかで率直な意見がもらえ、今後の商品開発や販売の可能性を確認。

基山農業活性化協議会（事務局：基山町産業振興課）

佐賀県三養基郡基山町大字宮浦666番地 Tel : 0942-92-7945 Fax : 0942-92-0741